

学校再開への第一歩 ～再開に向けて「再会」へのおもい～

兵庫県は新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言が継続中(5/20 現在)で、予断を許さない状況が続いていますが、お変わりございませんか。皆様のご健康を心よりお祈りしています。

さて、本日は久々に登校可能日が設定され、約40日ぶりに生徒たちの笑顔に触れることができました。「生徒たちと会えて安心した。」というのが私たちの率直な感想です。休校の間、生徒たちは学校から郵送された課題やスタディサプリでオンライン学習に取り組んでいます。同時に私たち教員もスタディサプリにログインしています。もちろん、課題の取り組み方やオンライン学習で困っている生徒をサポートするのが目的です。現在では生徒のほぼ全員がスタディサプリを使いこなしているのですが、休校が長引くにつれて私たちは一日に何度もログインする様になっています。学習状況を確認するだけでなく「生徒が元気であることがわかると安心」だからかもしれません。過去に記憶がないほどの離ればなれを経験して、「生徒から元気をもらっていた」ことをあらためて実感しています。

返送されてきた課題に目を通すと「学校再会」という文字をいくつか見つけました。もちろんこの「会」は誤字ですが、何となく気持ちが伝わってくるように感じました。一日も早く事態が収束して、本日が学校再開への第一歩になることを願うばかりです。



次回の登校可能日は 5月28日(木)の予定です。

本日は体育館で学年集会の形態で登校可能日を実施しましたが、次回はホームルーム教室での実施を計画しています。本来なら内容等の詳細を本日ご連絡するべきなのですが、今後の情勢により変更が必要になる可能性があります。内容や持ち物だけでなく、登下校の時刻(午前・午後のどちらになるか)なども含めて確定次第お知らせいたします。引き続き、学校のホームページやメール配信で最新情報を適宜確認していただきますようお願いいたします。

37回生「修学旅行プロジェクト」再開！ ～この困難を乗り越え、実現をめざそう！～

かけはし第14号(2/14発行)で、プロジェクトの始動をお伝えしてから約100日が過ぎようとしています。あの頃は「何人がスタッフに立候補してくれるのか・・・」「学年末考査が終了したら本格的な活動を・・・」「奄美の魅力が満載のプラン作成は・・・」等々、期待に満ちあふれていました。

ところが、その矢先の一斉休校。期間が長期化するにつれて、1学期に修学旅行を予定していた学校の中止や延期のニュースを耳にするようになりました。37回生の皆さんもとても心配していると思います。現時点では「みんなで奄美大島に行ける！」と断言することはできません。甲高だけで答を出せる問題ではないからです。私たちは不安を感じながら決定を待つ時間を過ごさなければなりません…。しかし、何もせずに待っているのは37回生らしくないと思いませんか。丁度一年前の総合的な探究の時間を思い出してください。「道程は厳しくても、一歩ずつ前に進むことが大切」なのです。皆さんがその力を発揮していくことが、きっと大きな成果につながると信じています。

西宮市と奄美市が長年にわたり友好都市関係を築いてきたのは、昭和30年、医療施設と医師不足に悩む奄美大島を奉仕活動で訪れた回生病院院長(当時)の菊池武正氏が、その後十数年間、数名の有志と毎夏訪島して住民の健康診断や衛生思想の普及に尽力したことがきっかけです。この度の新型コロナウイルス感染症の猛威により、医療崩壊の瀬戸際を経験した私たちは、当時の菊池氏や奄美大島の人々の気持ちに共感できるかもしれません。プロジェクトの詳細は学年集会で説明しますが、このような歴史のある交流の一翼を担う意義を感じて取り組んでくれることを期待しています。

